

三明機工、ホンダのタイから

ロボットシステム一括受注

2500ト機用に8月納入



久保田和雄社長

械が受注した。

三明機工は、2011年6月に、ダイカスト離型剤メーカーのエクスター社と合併で現地生産体制を整えたが、4月に合併を解消し、実質独資会社に切り替えた。今回のHATC向けシステムは、アルミ溶湯のスリーブへの給湯から、インサート、スプレー、取出し、冷却、トリミング、それに離型剤ミキシングまで含めた全工程が対象で、タイでの新体制後初の本格受注となる。

ダイカストロボットシステムの有力メーカーで知られる三明機工(本社・静岡市清水区、久保田和雄社長)は、このほどホンダのタイ4輪拠点のホンダ・オートモビル・タイランド(アユタヤ・略称HATC)から2500ト機用のフルロボットシステム一式を受注した。8月上旬に納入する。2500トダイカストマシン一台は、宇部興産機

械が受注した。三明機工は、2011年6月に、ダイカスト離型剤メーカーのエクスター社と合併で現地生産体制を整えたが、4月に合併を解消し、実質独資会社に切り替えた。今回のHATC向けシステムは、アルミ溶湯のスリーブへの給湯から、インサート、スプレー、取出し、冷却、トリミング、それに離型剤ミキシングまで含めた全工程が対象で、タイでの新体制後初の本格受注となる。

同社タイ拠点は、昨年6月から12月までの半年間で、ホンダ・モーターサ

イクル&スクーター・インディア(マネサール、略称HMSI)にロボット11システム(500ト機と800ト機用)を納入し、その案件を中心に初年度1億5000万円を売り上げた。今期売上高は3億5000万円を見込んでいる。

HATCは、タイ唯一のブロック内製工場で、2010年12月に2500ト機2台(東芝製)のうちの1台をホンダ・インドに移設(インドの垂直立ち上げに協力)したため、1台体制となっていた。今回の新設機は、その後地に設置される。